



文京区議会9月定例会が終了しました

区民の生活、生業への思い切った支援を 昨年度決算（一般・国保・介護・後期高齢会計）を認定せず

9月区議会が14日に終了しました。決算審査特別委員会で日本共産党が「認定せず」と表明。概要は、以下の通りです。

10月から後期高齢者への医療費窓口負担の2倍化が強行され、区内でも5千人以上が影響を受けます。コロナ禍と物価高騰の中、さらに受診抑制が心配されます。区民の命とくらしを守るため、コロナ対策や保健所体制の強化、給付事業の対象拡大などの施策が必要です。

昨年度は64億円基金を積み増し、成澤区政15年間で332億円も激増しました。「総合戦略」での基金見込みをさらに120億円も超過しています。こうした財政運営は認められません。コロナ禍や物価高で苦しむ区民へ還元、活用を求めます。
（予算の使途が問われています）

シビック改修にはこの5年間で100億円を投入する一方、老朽化した公園トイレは放置され、特別教室の改修を行うとしていたのに1教室しか進んでいないことは大問題です。一昨年の特別教室調査で判明した、劣化し改修を必要とする202教室の早急な改修を求めます。

私立認可保育園の運営費が昨年度までの7年で23億円を超えて「流用」され、昨年度は8億円に達しています。保育会社の本社経費や、区外で介護事業などにも使われ、保育士の低賃金の温床となつていきます。予算は文京区の子どもに全額使われるべきであり、保育事業を株式会社社に解禁するのために始まった「弾力的運用」はやめるよう国に求めるべきです。

私立認可保育園の運営費が昨年度までの7年で23億円を超えて「流用」され、昨年度は8億円に達しています。保育会社の本社経費や、区外で介護事業などにも使われ、保育士の低賃金の温床となつていきます。予算は文京区の子どもに全額使われるべきであり、保育事業を株式会社社に解禁するのために始まった「弾力的運用」はやめるよう国に求めるべきです。



桜蔭学園隣接のマンション建設 文京区は住民の声を真摯に聞け

水道橋駅ほど近くの桜蔭学園に隣接する宝生ハイツ（宝生能楽堂）の建て替えが、大きな問題になってます。区議会本会議でも決算委員会でもこの問題を取り上げてきました。

老朽化した現在の建物を「総合設計制度」を活用して20階70mにしようとする計画です。

教育環境を守れと、学園関係者や住民ら18,000筆を超える署名も集まっています。

決算委員会では、昨年マンション管理組合から建替え計画への意見を求められていた区は、「本計画を進めるように」と後押ししていたことを指摘。区民の声を真摯に聞くべきです。

まんだち日誌

◆3・4日 一日中、決算審査特別委員会。この間ずっと「公平性」という理由で事実上の時間制限が導入されています。全委員で6日間の時間を割り、ひとり一日約19分の持ち時間しかありません。いかにポイントを押さえてねらった回答を引き出すか、思案します。

◆5日 委員会審議の予備日。週後半の審議に向けて質問を用意するため、国保課や教育推進部などから事前聞き取り。

◆6・7日 一日中、決算委。3人の党委員のうち関川委員は委員長を務め質問できるのは私と小林委員のみ。質問を分担します。

◆8日 午後から党の会議。